

# 国語科学習指導案

授業者 青木友彦

学年・学級 5年2組

日 時 10月5日(土)

## 1 単元 「文化を受けつぐ」ことについて考えよう

(「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」中山圭子 東京書籍5年

資料「和菓子職人ビル・リオングレローさんの思い」, 他: 和文化職人インタビュー)

## 2 授業づくりについて

第5学年2組の子どもは、「読むこと」の授業開きとして一読総合法を用いて物語文「きつねのおきやくさま」を読み、語句や構成、レトリックの工夫に注目しながら物語のしかけについて学習した。「おにぎり石の伝説」では、語りの視点や会話文、「ぼくはぎよとして」や「手をパンとたたいた」等の行動描写を基にして人物の心情やその変化を読み、音読表現に生かす学習をした。説明文「インターネットは冒険だ」では、文章を筆者の語りかけとして捉えることで、文章構成や語句、事例選択などにおける筆者の意図を読む活動をした。叙述を基に筆者像を捉え「筆者図鑑」を制作することはできたが、考えの根拠は一部の叙述或いは狭い範囲の言葉に留まっていた。そこで、本単元を通して文章全体と部分、部分と部分の関係付けて読むなど、広範囲の叙述、多様な表現に反応しながら、文章や筆者に対する自分の考えをもつことができるようにしていきたい。

本教材は、和の文化を受けつぐとはどういうことかについて、和菓子を題材に、歴史や他文化との関わり、支える人という3つの観点から述べている説明的文章である。文章構成をみると、「中」には「どのようにしてその形を確立していったのでしょうか」「どのような人に支えられ、受けつがれてきたのでしょうか」という2つの問いがある。前者では、外国の影響を受けてきた和菓子の歴史と他の日本文化との関わりについて、年表や写真を用いて説明している。読者が歴史の流れを想像したり四季の和菓子を具体的にイメージしたりすることで、和菓子文化の奥深さを感じとることができる。後者では、「和菓子職人」「道具や材料を作る職人」「食べる人」を挙げているが、文末表現に着目すると「食べる人」を強調しているように思う。結びの一文にある「わたしたち」とは、学習者自身を含めた表現であり、和菓子を食べたり他の和の文化に触れたりして、和の文化の奥深さを感じてほしいという中山氏のメッセージを捉えることができる。これらのことから、一般に文化を受けつぐという「職人が」「そのままの形で」継承することを想起するが、筆者中山圭子氏は「食べる人(文化に触れる人)」「様々な文化と関わりながら発展するもの」という視点を与えていることがわかる。また、資料「和菓子職人ビル・リオングレローさんの思い」では、「外国人の職人」や「新商品開発」といった教材にはない視点がある。さらに、web資料には和菓子職人だけでなく、和ろうそく職人や和紙職人など様々なインタビューがあり、職人の文化継承に関する様々な考えに触れることができる。中山氏の考える「文化を受けつぐ」とことと比べることで、多角的な視点から言葉の意味を捉え直し、自身の言葉が拡張していくのである。

本単元では、自身の「文化を受けつぐ」の意味が拡張していく過程を踏まえ、3つのフェーズに分けて手立てを講ずる。【「文化を受けつぐ」って何だろう】では、題名に着目し、「文化とは?」「受けつぐとは?」という問いを立たせ、学習課題を設定する。一読総合法を用いて、叙述や図表から想像したり調べたりしたことを書きこみ、和菓子の歴史や他文化との関わり等を具体的に想像できるようにする。また、次時の展開を想像することで文章の構成を考えて読むことができるようにする。このフェーズでは、中山氏の「文化を受けつぐ」について捉え、それに共感する反応が多く表れるだろうと考える。【いろんな「文化を受けつぐ」を見つけよう】では、和の文化に関わる様々な職人のインタビューを通して、「一子相伝」「忠実」「革新」などといった多様な考えに触れる。そのため、用意したもの以外にもWeb資料や動画視聴など個のニーズに応じて資料にアクセスできるようにする。「文化を受けつぐ」の意味を拡張させ、教材の読み直しを図ることで、共感的に捉えていた中山氏の考えを批判的に捉え直し、自身の「文化を受けつぐ」に対する認識を深めることができる。【私の「文化を受けつぐ」とは】では、これまでの学習を踏まえ、小学5年生として「附属小の伝統を受けつぐ」ことについて考える。学校生活に結び付けて考えることで、「文化を受けつぐ」ことを身近なものとして捉え、言葉の意味をさらに深めるとともに、学校生活をリードする立場としての意思をもたせたい。板書は、ベン図等を用いて考えの共通点や相違点を構造的に表し、個の考えを整理するため手立てとする。また、学習の振り返りには「文化を受けつぐとは」について考えを書かせる。その日の資料に出会い、考えたことをまとめるようにすることで、言葉の認識の変化を自覚するとともに、多様な考えに触れ、多角的に考えるよさを感じることができるようになりたい。

### 3 目標

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。
- 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりして、自分の考えを広げることができる。
- 進んで情報を重ね合わせて読み、学習の見通しをもって自分の考えを交流しようとしている。

### 4 学習過程

学習活動	教師の働きかけ	評価の視点
<b>【「文化を受けつぐ」って何だろう】</b>		
1) 「和の文化」や、「文化を受けつぐ」という言葉から受けるイメージについて話し合う。 「はじめ」を読み、話の全体像を想像する。 2) 「中①」和菓子の歴史を中心に読み、和菓子の意味について捉える。 3) 「中②」を中心に読み、他の文化との関わりについて読んだり調べたりする。 4) 「中③」を中心に読み、和菓子の文化を支える人や受けつがれてきた過程を捉える。 5) 「おわり」と資料①を中心に読み、「文化を受けつぐ」について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「和の文化」に当たるものや「文化を受けつぐ」という意味を考えさせることで、文章の内容や抽象的な言葉の説明への関心を高める。</li> <li>・一読総合法を用いることで、時代や語句の意味等を自身で調べながら読み進めたり、年表や写真のよさを感じたり、文章に反応しながら読むことができるようにする。</li> <li>・図表を用いて和菓子の仲間を整理することや、和菓子の歴史年表と合わせて文章を読ませることで、図表のよさについて考えさせる。</li> <li>・年中行事や和菓子の用語を調べたり、「例え」を別の季節に書き換えたりする活動を通して、和菓子について関心を高めて読み進めることができるようにする。</li> <li>・和菓子文化を支える人と受けついできた過程を表などに整理させ、「おわり」ではどのような話でしめくくるのか想像させることで、これまでの話をまとめて、中山氏の考えを推し量ることができるようにする。</li> <li>・前文を通読して中山氏の考える「文化を受けつぐ」ことを整理した後に、資料①を提示することで、中山氏とビル・リオングレロー氏の「文化を受けつぐ」に対する考えの共通点や相違点に気づき、和文化にたざさわる人の考えに関心を広げることができるようにする。</li> </ul>	1) 題名や「はじめ」の文を基に、筆者の主張や内容の展開を想像している。  2) 年表と文章を結び付けて読み取っている。 3) 和菓子や他文化の情報をまとめている。 4) 和菓子を支え受けつぐ人についての情報を整理している。 5) 資料①と中山氏の「文化を受けつぐ」を比較し、共通点と相違点を読み取っている。
<b>【いろんな「文化を受けつぐ」を見つけよう】</b>		
6) 7) 和菓子や他の和文化職人のインタビュー記事を読んだり視聴したりして、「文化を受けつぐ」について考える。 8) 「文化を受けつぐ」について、中山氏の考えを批判的に読む。【本時】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の和菓子職人や和文化職人のインタビューや動画などを視聴し、「文化を受けつぐ」に対する様々な考え方に触れ、自身の考えを広げるとともに、中山氏の主張していることや述べていない考えを明確にする。</li> <li>・中山氏のいう文化を支える人のうち、「食べる人」に重きを置いて話していることに気付かせ、これまでの職人インタビューの内容を比較して、その考え方について自分の意見をまとめさせる。</li> <li>・自分の読みを話したり、書いたりする際には「どこから(叙述)」「なぜ(理由)」「そう思う(考え)」の3点セットを用いるようにし、筋道立てて表現することを意識させる。</li> </ul>	6) 7) 進んで様々な資料を読み比べ、「文化を受けつぐ」に関する情報を分類し、整理している。 8) 中山氏と他の職人の資料を読み比べ、中山氏の主張を明確にし、「文化を受けつぐ」という意味について批判的に考え、表現している。
<b>【私の「文化を受けつぐ」とは】</b>		
9) 「文化を受けつぐ」を自分たちの問題に置き換えるとどういうことか考える。  10) 「文化を受けつぐ」に対する考えを交流し、自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期「うれしのフェスティバル」の学習で附属小の伝統について話し合ったことを想起させ、5年生として改めて「文化を受けつぐ」とはどういうことか考えさせる。</li> <li>・「和菓子職人」「道具職人」「食べる人」に当たるのはそれぞれ誰なのか考えさせ、2学期の行事や未来に向けて取り組んでいきたいことを書きまとめるようにする。</li> </ul>	9) 「文化を受けつぐ」に関する考え方を自身の生活に置き換えて考えようとしている。 10) 「文化を受けつぐ」に対する考えを交流し、自分の考えをまとめている。

## 5 本時の展開

### (1) 目標

教材文の再読や資料の比べ読みを通して中山氏の主張を明らかにし、「文化を受けつぐ」ことについて批判的捉え、自分の考えをもつことができる。

### (2) 展開

学習活動	教師の働きかけ	評価の視点となる子どもの姿
1 前時の学習で読みとった、「文化を受けつぐ」に関する職人の考えを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までに調べたり読んだりした和 문화職人について、仕事や抱いた印象について問いかけ、全体で交流しやすい雰囲気をつくる。</li> <li>「文化を受けつぐ」という意味について、職人が語った言葉なのか、資料を読んで感じた印象なのかを明確にさせる。印象を話す場合は、根拠となる叙述やそう感じた理由を問うようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれ調べた資料を基に考えたことを、相手がわかるように話そうとしている。</li> </ul>
2 中山氏が述べていることとの共通点と相違点を整理し、中山氏の主張を見出す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>支え受けつぐ人「職人」「食べる人(文化に触れる人)」や「和菓子は様々な文化と関わりながら確立してきた」などの叙述に着目させ、中山氏の考えを想起させる。</li> <li>思考ツールを用いて板書することで、調べた和 문화職人の考えとの共通点や相違点を視覚的に捉えやすくする。</li> <li>類似点など判断が難しい場合は、教材と資料の叙述を確認したり、「本当に共通しているか？」と問い返したりしてそれぞれの捉え方について考え直したりする機会にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考え方の共通点や相違点について、読み直したり話し合ったりして考えている。</li> </ul>
3 教材文の構成や文末表現などに着目し、中山氏の主張を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>支え受けつぐ人のうち、特に強調しているのはどの人かについて読み直しを促すことで、様々な資料に出てきた職人とは考え方が異なる視点をもっていることに気付かせる。</li> <li>「中①歴史」「中②文化との関わり」の必要性に着目させることで、「食べる人」である読者に和菓子への関心をもたせようとする中山氏の意図を推論させる。</li> <li>話し合いの前、あるいは途中で考えを書かせる活動を取り入れることで、様々な意見を整理し、自分の考えに生かすことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の構成や文末表現、「おわり」など、様々な部分を基に、筆者の主張を見つけようとしている。</li> </ul>
4 中山氏の考えに対する自分の考え「文化を受けつぐ」を書き表す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習で捉えた中山氏の考え方について、自身の考えや他資料の内容等と比較して書きまとめるようにする。その際、評価の根拠と理由を明確に記述させることで、論理的に考えを表現できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中山氏の考えを簡潔に表し、それに対する考えを根拠や理由を添えて書き表している。</li> </ul>